

① 昭和40年代はじめに小平市内で旧石器時代の遺跡が発見されました。鈴木遺跡と名付けられ、石神井川源流にあるこの遺跡は、約3万年前から1万年前の遺跡です。当時の人々は食料を求めて頻繁に移動しており、鈴木遺跡には石器を作った跡や、狩猟用のおとし穴、獲物の肉を調理した跡が残っています。

② その後、武蔵野の原野であるこの辺りに住む人はいませんでした。しかし古代から中世には東山道や鎌倉街道が通り、近世には青梅街道が開かれ多くの旅人が通る場所でした。

③ 徳川家康によつて幕府が開かれると、江戸の人口は増えていきました。江戸城をはじめとした町づくりのため、石灰が大量に必要となり青梅街道が開かれました。石灰は壁の上塗りなどに使われる「漆喰」の原料です。石灰を江戸へ運ぶため、青梅街道は馬の往来で賑わいました。しかし、箱根ヶ崎と田無の間、今の小平市のあたりでは人家も飲み水もなく、暑さ寒さや雨風をしのぐ木陰もなく、荷物を運ぶ人々の苦労は並大抵ではありませんでした。

④ 江戸の人口がますます増えると飲み水が不足しました。そこで幕府は承応2年(1653年)に玉川兄弟に命じて玉川上水を作らせました。羽村から四ツ谷大木戸まで43キロにわたる大工事だったにもかかわらず、この工事は8カ月で完成しました。その後、玉川上水沿いの村々は分水を引くことが許され、飲み水を確保できるようになりました。

⑤ そこで、今の武蔵村山市、岸村出身の小川九郎兵衛は玉川上水と野火止水用に挟まれた土地の開発を願い出しました。石灰を馬で運ぶ「伝馬継」など

を請け負うことで幕府の許可を得て、明暦2年(1656年)開発が始まりました。およそ20年後、開発がほぼ終了した小川村の絵図を見ると、中央に青梅街道が走り、南の玉川上水から引かれた分水に沿って家々があり、村の中央部は短冊形の地割が描かれています

⑥ 八代將軍吉宗の時代には財政立て直しのために新田開発が進められました。これによつて小平の地には小川新田・大沼田新田・野中新田与右衛門組・野中新田善左衛門組・鈴木新田・廻田新田という6つの新田が次々に開発され、小川村と合わせて7つの村ができました。

⑦ ところで小平には「鷹野街道」という『鷹』のつく道があるのはご存知ですか？これは小平の地が徳川幕府の御三家のひとつ、尾張家の鷹場だったことに由来しています。鷹場とは鷹を使って狩をする場所です。そのため、鳥や小動物を驚かせて獲物が少なくならないように、鷹場の村々にはさまざまな制約がありました。

⑧ 小平市内を走る西武新宿線には花小金井という駅があります。これは玉川上水沿いの桜並木、小金井桜にちなんで名付けられた駅名です。見事な花を咲かせるこの並木は江戸の人々にも知れ渡り、広重や北斎などに描かれることによつて名高くなりました。文人や町人そして13代將軍家定、さらに明治天皇も訪れています。大正13年には国の名勝にも指定されました。

⑨ 江戸時代が終わり明治になると、新政府は県を置きました。後に小平村となる7つの村のうち3か村は韮山県、4か村は品川県になりました。その後小平の村々は神奈川県に編入され、明治22年には7つの村がひとつにまとまり小平村が誕生し

ました。小平という名前は、最初の開拓村である小川村の小さいという字と、この地域が平らであったことから平の字を取り、小平になったといわれています。明治26年、神奈川県から東京に移管され、小平は東京府北多摩郡小平村となりました。

⑩ 江戸時代の運搬は馬や船に頼っていましたが、明治になると汽車が登場し、鉄道による輸送網が発達していきます。明治22年には新宿―立川間に

現在の中央線、甲武鉄道が開通します。小平においては明治27年、今の国分寺線である川越鉄道が引かれ、昭和2年高田馬場―東村山間に西武新宿線となる西武鉄道が開通、それよりやや遅れて国分寺―多摩湖間の多摩湖鉄道が開通しました。こうした交通網の発展に伴い、小平の姿も次第に変わっていきます。

⑪ 東京に大きな災害をもたらした大正12年の関東大震災後、すぐに東京周辺部に移り住む人々が増えてきました。郊外の宅地開発が進められる中で小平・国分寺・国立を中心とする学園都市の計画が立てられました。津田英学塾は昭和6年に小平で授業を開始し、昭和8年には一橋大学の前身である東京商科大学の予科が移転してきます。さらに昭和病院・多摩済生病院などが設けられ、小平は市街地化していきます。

⑫ アジア・太平洋戦争中、津田塾の女子学生たちも軍需生産に携わりました。校舎は日本航空機立川工場の分工場となり、学生たちは生産・管理運営事務を担いました。小平の各地には陸軍施設や軍需工場など軍関係の施設が数多く置かれました。戦後はその跡地が警察学校や国立精神・神経医療センター病院などの公共施設に利用されています。

⑬ 昭和19年、小平村は小平町になりました。このころはサツマイモを中心に農作物が作られ、すいかや大根など都市向けの作物も増えていました。終戦を迎えると、戦地から帰り農業を希望する者や農家に間借りする者が多く流入し、住宅が次々と建てられ、都営住宅も建設されました。町の人口は増えつづけ、昭和30年代には日立やブリヂストンをはじめとして大小の工場が進出し、近郊住宅地が形成されてきました。

⑭ 昭和37年に小平は町から市になります。人口を見てみると町制施行時約1万2千人に対し、市制施行時には約7万人と20年足らずの間に6倍にもなりました。昭和40年には小平団地の入居が始まり人口はさらに増え続けています。現在の人口は何万人になっているでしょうか。(いまでは19万人になっています。)

⑮ 武蔵野に象徴されるケヤキなどの樹木が茂り畑地の広がる緑豊かな小平の景観は、私たちの祖先が営々と土地を耕すことよって形成されました。多くの大学を有する学園都市で、公民館・図書館も充実し、平櫛田中彫刻美術館・鈴木遺跡資料館・ふれあい下水道館・ふるさと村などではユニークな文化活動が展開されているまちです。37本の丸ポストがあり、ぶるべーやコダレンジャーなどのキャラクターも活躍しています。

小学生向け（3年生以上）

- ① 小平市内では3万年前から1万年前に人が生活した跡が見つかりました。それが鈴木遺跡です。その頃の人たちは食べものを求めて移動しながら暮らしていました。鈴木遺跡には石器を作った跡や落とし穴の跡が見つかっています。鈴木遺跡資料館では石器などの貴重な資料を展示しています。
- ② その後、玉川上水が作られる江戸時代までは、生活に必要な水がないため住む人はいませんでした。しかし、このあたりは京都に通じる東山道や鎌倉へ行く鎌倉街道などの道が通り、行きかう人の姿はありました。
- ③ 江戸時代になると、江戸の町には城や屋敷などが作られました。そのため壁塗りに使う青梅の石灰が必要となり、青梅街道は荷物を運ぶ馬でにぎわいました。しかし今の小平あたりは、家も飲み水もなく、かんかん照りの夏や風が吹く寒い冬も休める場所がありませんでした。
- ④ 江戸に住む人が増えると、飲み水が足りなくなりました。そこで幕府は玉川兄弟に玉川上水を作らせました。羽村から長い距離を掘り進める大変むずかしい工事だったのですが、この工事は8カ月で完成しました。玉川上水沿いの村々は分水を引くことが許され、飲み水を手に入れることができるようになりました。
- ⑤ 分水を引くことができるようになったので、小川九郎兵衛は新しい村づくりの願いを幕府に出しました。今からおよそ350年前のことです。石灰を馬で運ぶ仕事も引き受けました。やがて玉川上水から引かれた分水ぞいに家々がたち、家の後ろに広がる土地を耕し、小川村が開かれていきました。
- ⑥ その70年後、小川村に続いて小川新田・大沼田新田など6つの村が次々に開かれ、今の小平市の場所には、7つの村ができました。
- ⑦ 小平には鷹野街道という『鷹』のつく道があるのを知っていますか？これは小平市のあたりが江戸時代には鷹を使つて狩りをする鷹場だったからです。そのため、獲物が少なくならないよう鷹場の村々さまざまな決まりがありました。
- ⑧ みなさんは、花小金井駅を知っていますか？この名前は玉川上水沿いの桜並木に近い駅ということから名づけられました。この桜は小金井桜という名前です。成長してきれいな花を咲かせはじめると江戸でも評判になり、たくさんの人が訪れるようになりました。
- ⑨ 明治22年に7つの村がひとつになって小平村が誕生しました。この時小平村は神奈川県でした。4年後に東京府になりました。小平という名前は、最初にできた小川村の小さいという字と、この場所が平だったことから平の字を取って、小平になったといわれています。
- ⑩ 明治になると汽車が登場して、鉄道で人やものを運ぶことができるようになりました。このように交通が発展したことで小平の姿も次第にかわってきます。
- ⑪ その後、昭和病院ができたり、津田塾大学や一橋大学が移ってきたりしたことで、小平はさらに発展していきました。

⑫ アジア・太平洋戦争中、小平には軍に関係する施設がたくさん建てられました。津田塾大学の女子学生たちは勉強することができず、学校は工場となり飛行機の部品を作るようになりました。

⑬ 昭和19年、小平村は小平町になりました。このころはサツマイモを中心に農作物が作られ、スイカや大根といった作物も増えました。戦争が終わって、都営住宅が造られ、ブリヂストンや日立をはじめとした工場ができ、町の人口は急激に増えていきました。

⑭ 昭和37年に小平は町から市になります。町になった頃は1万2千人だった人口が、市になる時には約7万人でした。人口は増え続けて現在は19万人になっています。

⑮ 自然に恵まれ緑豊かな小平のけしきは、私たちの祖先が、土地を開いて作り守ってきたものです。現在の小平市にはグリーンロードがあり、また平櫛田中美術館や仲町テラスといった特徴ある施設があります。37本の丸ポストがあり、ぶるべーやコダレンジャーなどのキャラクターが活躍しています。これまでの歴史を受け継ぎ、明日へとつないでいきますよう。